

団体名

特定非営利活動法人下松べんけい号を愛する会 (下松市)

代表者名	大木 孝行	団体の目的 ・子ども達が大好きなSL下松べんけい号の活用を通じて、市民の健康で楽しいまちづくりや、三世代交流による子ども達の個性を伸ばす子育て支援活動を行う ・復元ミニモデル機を公開運転すること
構成員数	220人	
設立	H23年4月	
問い合わせ先	http://www.benkeigo.org	

事業名

鉄道産業の町下松 講演とパネルディスカッション会

事業の目的

- ・活動団体同士、鉄道関連企業、観光や行政の各関係団体の協働により、「鉄道産業の町下松」を全国にアピールして、地域活性化をめざす

事業の内容

- ・講演とパネルディスカッションの開催
日時：9月30日(土) 14:00~17:00
場所：スターピアくだまつ展示ホール(下松市)
内容：①講演「鉄道産業のまち下松 全国発信における課題とは何か？」
講師 藻谷浩介氏(日本総研主席研究員)
下松市の歴史的・地勢的な地域特性と鉄道産業の国際比較など
②パネルディスカッション
活動団体、新聞社、議会、フィルムコミッション等に所属する人達による「町興しと鉄道産業」をテーマとしたパネルディスカッション
参加者：約250人

事業の成果

- ・講演とパネルディスカッションにより、下松市の町興しのツールとして、鉄道産業が必要であるということへの理解が深まった
- ・当会の活動を来場者に理解してもらえ、SL下松べんけい号の存在をアピールできた

活動現場レポート!

講演とパネルディスカッション <H29.9.30/スターピアくだまつ>

この日は「里山資本主義」で有名な藻谷浩介氏を講師とした講演と、藻谷氏をコーディネーターに、観光協会、日立製作所笠戸事業所OB、まちづくりNPO団体代表、地元メディア関係者等5人のパネラーによるパネルディスカッションが行われました。

藻谷氏は、「下松市は日本の5大鉄道車両工場を有しているながら、それを活かしたまちづくりには消極的」と残念がられ、今後は、企業や行政、市民が共に「今、地域にあるもの」を大切に、下松の良さを再発見しながらまちづくりを行う必要があると力説されました。

パネルディスカッションでは、「自然や名所だけではなく、産業等も活用していくことが重要」との意見が出ていました。

まちづくりを参加者が自分のこととして真剣に考えている様子が伝わってくる、とても濃い内容のイベントとなっていました。



パネルディスカッションの様子



会場には活動紹介のパネル展示も

